

金沢市立小将町中学校

[はじめに]

- ・本校は、1947年（昭和22年）に創設され、創立62周年を迎えます。市内の中心部に位置し、多くの特色を有する中学校である。
- ・その特徴の一つ目は本校の前身が明治14年創立の金沢区高等小学校という歴史の古さにある。二つ目は校区が市内中心部に位置し、伝統的文化財が多数存在すること。三つ目は県内唯一の特別支援学級の分校が設置されており、障害のある生徒と障害のない生徒が同じ校舎で学んでいること。
- ・今年度、ユネスコスクールの認定を受け、学校の特色や地域の特色を生かして、これからの社会を生き抜く力としての情報収集力、課題解決力、表現力等の育成を目指し取り組んでいる。

郷土「金沢」を理解し、広い視野に立って世界を見よう！

1 ユネスコスクールとしての取組

「4つの表現力発表会」を中心とした総合的な学習の時間などの取り組み

本校では、生徒にとって身近であり、本市の大きな特色である「伝統文化」や自らが「生きる」ことを主な学習内容として、各分野の専門家からの指導や、個別、協同の探究活動を通して、これからの社会を生き抜く力としての情報収集力、課題解決力、表現力等を兼ね備えた持続可能な社会の担い手となる人材の育成をめざしている。

【1年生】「郷土金沢の伝統文化」

1年生では、地域の伝統や文化の継承を目指した取り組みと課題の調査を通して、郷土を理解する学習をフィールドワークで行い、調査結果をまとめ、壁新聞として発表した。

【2年生】「伝統文化」

同じ加賀藩の城下町である金沢と高岡の伝統文化の現状と課題について各自が探究するテーマを設定し、現地でのフィールドワークを通して郷土の理解を深める学習を行った。調査結果を壁新聞やクラスでの発表をとおして分かりやすい話し方、態度を研究した。

【3年生】「金沢と京都の伝統文化」「現代の世界」

武家の伝統文化が残る金沢と公家の文化が残る京都の比較から、伝統文化について理解を深める学習を、フィールドワークを通して行った。また、本市の海外の姉妹都市出身者との交流を通して、国際理解を深めるとともに、郷土金沢や本市の伝統文化を外国の人に発信する取組を行った。さらに、各自が身の回りの生活や現代社会における様々な問題についてテーマを設定し、探究しながら、現代の世界を知る学習を行い、4つの表現手段で、自らの考えを発表した。

【4つの表現力発表会】

本校の学習活動大きな特色である、「4つの表現力発表会」は、「総合的な学習の時間」の目的である、課題発見力・課題解決力・表現力の育成の集大成として、本校を卒業までに身につけさせたい「4つの表現力」として、3年生が国語科では、各自のテーマに基づく意見発表として『小論文』、理科では、パソコンのパワー



ポイントを使った研究発表として『プレゼンテーション』、社会科では、テーマに基づく新聞切り抜きポスターによる意見発表として『ポスターセッション』、英語科では、英語による意見発表として『英語スピーチ』を行い、11月下旬に発表会を行っている。発表会では、保護者も招き、3年生全員が1・2年生に対して、自己のテーマにもとづいた研究内容について意見発表を行う。意見発表を行う3年生の姿が1・2年生の目標にもなっている。(新聞切り抜き作品による意見発表は全員が行い、他の3つについては代表生徒が発表を行う。) 3年生の発表を聞いて学習する機会とした。

環境問題への取組

(1) 植林地作業

本校は、市内でも唯一の学校植林地がある。卯辰山の総面積8,271坪の地で、戦時中は食糧増産の一翼として山林を開拓し、島として活用していたが、戦後植林地として松や杉などを植林し今日に至っている。創立記念行事の一貫と位置づけ、毎年6月に全校生徒、教職員、保護者が協力して植林地作業(補樹、下刈、つる切り、下枝切り、雪倒れなおしなどの作業)を行うことで、学校を愛する心を育み、自然を大切にする心を育てる学習を行った。



(2) 生徒会活動の取組

本年度より、生徒からの発案で「エコキャップ運動」を通して、普段ゴミとして捨てられているペットボトル飲料のキャップを回収して、リサイクルするとともに、その売却益で途上国の子どもたちにワクチンを送る活動を行った。



合わせて、キャップがゴミとして捨てられた場合、焼却処分されてCO2の発生源になるなどの環境問題に関心を持たせる機会を設けた。また、昨年、東日本大震災を受けて、何か自分たちにできないかと、被災地の小中学生に文房具を届ける取り組みを行った。

2 成果と課題

■生徒の変容や、持続可能な社会の構築に向けた新たな行動

・生徒はそれぞれの学習を通して、地域に対する愛着を育み、地域の人や、文化を大切にする気持ちを学んできた。今年度は、外部の方を積極的に招いて、地域から学んできたことを伝えることができ、人と人の繋がりを深めたり広げたりすることができた。

・また、ユネスコスクールの取り組みをとおして、学級単位で学習内容を深めるクラスもあり、生徒の視野や思考は広まった。



■持続発展教育カリキュラム作成上の工夫等について

これまでと全く学年任せであった学習内容に系統性を持たせるようにした。今後は、これまで以上に、総合的な学習の時間、教科、地域との関連性を持たせたカリキュラムを整えていきたい。

■情報の発信、ネットワークづくりについて

ホームページを通して本校の取り組みを発信していけるように環境を整えなければならない。また、県内外の加盟校との交流や連携づくりが今後の課題である。